

授業科目	ビジネスと法					実務家教員担当科目	-				
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	前期				
担当教員	高野 雄史										
授業概要	<p>私たちの生活は契約で成り立っているといっても過言ではありません。そして、契約に関するルールは多岐にわたります。このルールを知ることは、日常生活を生き抜くために必要不可欠と言えます。本講義では、契約の基本ルールを学び、ビジネスにおける法的センスを養成することを目的とします。まず、一般法である民法の基本知識から学ぶことからスタートします。また、ビジネスの世界では、消費者と事業者の間で契約がされており、消費者契約に関するルールを知ることが重要です。そこで、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法、製造物責任法などの「消費者法」を扱います。そして、ビジネスでは、特許や商標、著作権などの知的財産が注目を集めていることから、知的財産法についても扱います。</p>										
授業形態	講義 小テスト	授業方 法	Classroom を利用して課題を出します。								
学生が達成すべき行動目標											
標準的 レベル	ビジネスに関する法制度の基本的な知識を修得して、様々な社会問題を考えることができる。契約の法的しくみについて理解して、新聞等の資料を読むことができる。										
理想的 レベル	ビジネスに関する法制度の基本的な知識を理解し、様々な社会問題を考える際に応用することができる。契約の法的しくみについて理解して、新聞等の資料を読み解くことができる。										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）					備考					
試験											
小テスト	15%										
レポート	85%										
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	DP5	○	ナンバリン グ	T021303J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
復習：該当部分の復習										4	
授業計画											
第1回	<p>テーマ：ガイダンス 本講義の進め方を説明し、法の役割について解説する。</p>										
第2回	<p>テーマ：私法入門1 六法を概略して説明し、民法の構成について解説する。</p>										
第3回	<p>テーマ：私法入門2 財産法のしくみ（売買契約、事務管理、不当利得、不法行為）について解説する。</p>										
第4回	<p>テーマ：契約法1</p>										

	契約の成立（人、意思能力、行為能力、法律行為、申込と承諾）について解説する。
第5回	テーマ：契約法2 契約の効力（債務不履行、危険負担、瑕疵担保責任）について解説する。
第6回	テーマ：契約法3 契約の終了・履行の確保（債権の消滅原因、人的担保・物的担保）について解説する。
第7回	テーマ：消費者契約法1 消費者契約法の概要（1条～3条、消費者団体訴訟）について解説する。
第8回	テーマ：消費者契約法2 消費者取消権（4条～7条）について解説する。
第9回	テーマ：消費者契約法3 不当条項規制（8条～10条）について解説する。
第10回	テーマ：特定商取引法1 特商法のしくみ（対象となる取引類型）について解説する。
第11回	テーマ：特定商取引法2 特商法のしくみ（取引類型ごとの特徴）について解説する。
第12回	テーマ：割賦販売法 クレジットを利用した契約のしくみについて解説する。
第13回	テーマ：製造物責任法 製品トラブルに関する法的問題について解説する。
第14回	テーマ：知的財産法1 知的財産法（特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権法、不正競争防止法）の基本的制度について解説する。
第15回	テーマ：知的財産法2 具体的な事例を用いて知的財産法（とくに商標法、著作権法）について解説する。
テキスト	指定はありません。必要に応じてプリント配布します。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書：米倉明『プレップ民法 <第5版>』弘文堂 1,700円＋税 参考図書：中田邦博、鹿野菜穂子編『基本講義 消費者法 [第5版]』日本評論社 3,080円 その他、講義内で随時紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	課題のフィードバックは、翌週の授業内において提示します。
学生へのメッセージ・コメント	授業中に取り扱った内容について整理・復習するだけでなく、普段の生活において、ルールや法の存在に気付いて、なぜそのようなルールがあるのか考えてみてください。授業で扱った内容と関連付けることができれば、授業外の課題に取り組んだこととなります。

